

# 西ドイツ医療保障の推移と現状

表2 疾病保険（一般被保険者分）の給付費の増加率

(単位：%)

(西ドイツ)

西ドイツの医療保障は最近めまぐるしい動きをしているが、それは各種統計の面にも現われている。以下、制度改正等との関係で医療保障の各種統計の推移と現状をみてみよう。

表1 疾病保険の被保険者数の推移

(単位：1,000人, %)

年	計	一般被保険者	年金受給者	全被保険者に占める 年金受給者の割合
1961	27,594	22,012	5,582	20
1965	28,740	22,856	5,884	20
1970	30,954	22,900	8,054	26
1971	31,452	23,201	8,251	26
1972	32,824	23,801	9,023	28
1973	33,220	24,163	9,057	27
1974	33,525	24,169	9,356	28
1975	33,503	23,865	9,638	29
1976	33,557	23,714	9,843	29
1977	33,813	23,783	10,030	30

(注) 年平均。

(資料) Arbeits-und Sozialstatistik.

給付	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年	1970年 =100 1977年
医科診療	10.4	12.1	13.9	12.2	3.6	3.4	210
歯科診療	11.3	19.0	25.6	23.3	4.0	6.4	269
薬剤	14.0	14.9	14.6	11.1	5.8	2.6	210
その他の治療 材	31.5	36.8	24.5	22.5	16.5	8.2	460
歯科補てつ 入	26.5	17.2	12.0	12.77	32.4	0.7	723
入院	20.8	22.6	28.2	12.6	7.6	3.4	302
傷病手当	16.1	13.4	10.7	8.2	1.5	4.1	200
その他の疾病 給付	25.2	40.8	22.9	25.1	△5.1	0	332
相談医サー ビス	4.7	11.2	14.1	10.6	4.8	4.6	175
予防 出	40.0	14.8	11.0	19.6	△13.8	1.7	341
現物給付	8.0	9.1	27.9	11.5	8.6	1.4	219
現金給付	△2.4	△1.2	8.4	△0.6	△0.1	△0.3	117
保護	25.9	8.8	10.8	17.1	17.7	7.1	242
経営・家政 援助	10.5	7.6	4.7	9.6	4.6	2.0	172
計	15.4	16.5	17.8	8.1	8.1	3.5	257

(資料) 表1と同じ。

表3 疾病保険（年金受給者分）の給付費の増加率

(単位：%)

給付	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年	1970年 =100 1977年
医科診療	14.1	17.0	18.5	16.9	11.2	6.9	278
歯科診療	10.4	15.2	19.1	27.1	5.1	8.3	263
薬剤	17.9	20.4	18.6	15.5	11.0	0.5	259
その他の治療 材	34.3	41.8	31.0	30.3	21.8	8.5	578
歯科補てつ	25.5	32.6	19.1	39.6	11.3	1.2	473
入院	25.2	29.0	32.8	19.8	13.2	9.0	404
その他の疾病 給付	31.9	46.0	32.6	35.4	2.2	7.5	500
予防	35.4	30.0	34.9	29.8	△11.1	4.9	528
埋葬金	18.0	18.2	12.1	17.4	7.4	3.8	263
計	20.5	24.1	23.9	20.0	11.8	6.0	333

(資料) 表1と同じ。

## 1. 疾病保険の費用の動向

表1は疾病保険の被保険者数の推移を示したものであるが、これをみると被保険者数は徐々に増加している。しかし、年金受給者以外の一般被保険者の数は1972年以降ほとんど変化していない。これに対して年金受給者数は年々20～30万人ずつ着実に増えている。このため1961年当時20%であった全被保険者数に占める年金受給者数の割合は、1971年には26%になり、1977年には30%になっている。このような被保険者数の動向は、疾病保険財政に大きく影響し、表3にみられるように年金受給者疾病保険部門の給付費の伸びはいちじるしい。これに対して一般被保険者数の停滞から、保険料収入の大幅な自然増はなく、

増大する支出に応じた収入の確保は、結果的に保険料の引上げをもたらしている。すなわち、表5のとおり1970年代に入って疾病保険の保険料率は年々上昇し、1977年には11.4%に達している。

しかし、1977年7月から疾病保険費用抑制法が施行されたことにより、疾病保険の費用はきびしく抑制され、表2、表3、表4にみられるように1977年の費用の伸び率はいちじるしく低下している。とくに引上率を6%以内に抑えられた医科・歯科診療費、処方総額を制限された薬剤費、1975年にいったん10割給付とされながら8割給付に引き下げられた補てつ給付費、間接的な規制を受けた入院費の伸び率の低下が目立っている。これは疾病保険費用抑制法の効果が相当大きかったことを意味する。1978年の社会報告（Sozialbericht 1978）によると、疾病保険の費用の増加率は、1956～1960年15.5%、1961～1965年10.5%、1966～1970年10.0%、1971～1975年19.5%、1976～1982年6.0%（見込み）となっており、1971～1975年の高い増加率に比べて1976～1982年の増加率は相当低くなると予測されている。このため保険料率も表5のとおり11.4%で推移するものとみられている。

ただ増加率の高い入院費については、直接的な抑制措置がまだとられていないので、表4のとおり入院費のウエイトは依然大きい。これに対して医科診療費や薬剤費のウエイトは低下しつつある。現在、入院費についても抑制措置を講じる必要があるとの議論がなされており、近い将来入院費の抑制が行われるであろう。そうなれば疾病保険の費用はさらに伸び率が低下することになる。

## 2. 病院、病床、医療従事者の動向

表6のとおり病院数は減少しているが、病床数は年々増加しており、1病棟当り人口数も減ってきている。また、勤務医1人当たり病床数が減ってきており、病床数の増加にまして勤務医数が増えてきていることがわかる。同様に看護要員1人当たり病床数も減ってきており、看護要員の増加の傾向がわかる。こうした

表4 疾病保険の費用の構成比と増加率

(単位：%)

	1972年		1973年		1974年		1975年		1976年		1977年	
	構成比	増加率	構成比	増加率	構成比	増加率	構成費	増加率	構成費	増加率	構成費	増加率
医科診療給付	21.9	11.4	21.0	13.4	20.2	15.2	19.4	13.6	18.8	5.9	18.8	4.6
歯科診療給付	6.5	11.3	6.5	18.7	6.8	25.1	7.1	23.6	6.8	4.1	6.9	6.6
その他の医療給付	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	44.4	0.0	69.2	0.0	31.8	0.1	24.1
薬剤給付	16.7	15.8	16.5	17.4	16.0	16.5	15.3	13.2	15.2	8.3	14.8	1.5
その他の治療材料	3.4	32.2	4.0	38.3	4.2	26.6	4.4	25.0	4.8	18.3	5.0	8.3
補てつ給付	4.4	26.1	4.5	22.0	4.3	14.4	7.2	96.4	8.4	27.1	8.1	0.8
入院給付	27.1	22.3	28.5	25.0	31.0	29.9	30.1	15.4	30.3	9.8	30.7	5.7
傷病手当	9.9	16.2	9.5	13.4	8.8	10.6	8.0	8.6	7.4	1.5	7.4	4.1
その他の疾病給付	0.9	27.8	1.1	42.8	1.2	26.8	1.3	29.5	1.1	2.0	1.1	3.5
相談医サービス	0.4	10.0	0.4	11.2	0.4	14.5	0.3	10.4	0.3	6.0	0.3	5.2
余後療養給付	0.1	55.2	0.1	17.8	0.1	7.5	0.1	△12.3	0.1	2.0	0.1	11.8
予防給付	1.8	39.0	1.8	17.9	1.8	16.4	1.8	22.3	1.4	△13.0	1.4	2.7
リハビリテーション付加給付	0.9	0.6	0.7	△5.3	0.0	△92.8	0.1	204.5	0.1	22.4	0.1	△4.9
その他の給付	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	-	0.2	132.8
出産給付	3.8	2.8	3.3	3.3	3.2	16.6	2.9	6.1	2.8	5.0	2.7	△0.2
経営・家政援助	-	-	0.0	-	0.1	446.2	0.1	11.3	0.1	△1.3	0.1	1.3
埋葬金	2.0	16.2	1.9	16.0	1.8	10.5	1.8	15.9	1.7	6.8	1.7	3.4
海外給付	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	-	0.5	△4.5
給付計	100	16.8	100	18.7	100	19.7	100	18.5	100	9.3	100	4.3
事務費	5.0	17.1	5.0	19.1	5.0	18.2	4.8	11.7	4.5	5.4	-	-
その他の費用	-	51.3	-	157.4	-	△36.4	-	△42.0	-	-	-	-
合計	-	16.9	-	19.1	-	19.2	-	18.0	-	9.1	-	-

(資料) Arbeits- und Sozialstatistische Mitteilungen.

表5 疾病保険の平均保険料率の推移

(単位：%)

年	労働者	職員
1950	6.0	5.2
1955	6.2	5.8
1960	8.4	6.4
1965	9.9	7.2
1970	8.2	8.2
1971	8.2	8.2
1972	8.4	8.4
1973	9.2	9.2
1974	9.5	9.5
1975	10.5	10.5
1976	11.3	11.3
1977	11.4	11.4
1978	11.4	11.4
1979	11.4	11.4
1980	11.4	11.4
1982	11.4	11.4

(注) 1978年以降は予測。

(資料) Sozialbericht 1978。

病床数や医療従事者の増加は、1972年の病院財政安定法による病院建設の促進や近代化によるところが大きい。しかし、こうした病院の拡充や医療従事者の増員が入院費の増加を招いていることも事実である。このため1978年に病院財政安定法の改正が行われ、従来のゆるやかな病院建設計画等をかなりきびしいものに変更する措置がとられた。これにより1972年以降これまでのような病床数の伸びは

表6 病院数・病床数の推移

年	計	(うち) 一般病 院	公的 病院	公益 病院	民間 病院	1病床当り人口		勤務医1人当り 病床数		看護要員1人当り 病床数		
						計	一般病床	計	一般病床	計	一般病床	
1971	院	3,545	2,407	1,340	1,248	957	89	132	13.8	10.5	3.6	3.0
	床	690,236	465,946	377,477	251,780	60,979						
1972	院	3,519	2,364	1,322	1,239	958	88	130	13.3	10.2	3.4	2.8
	床	701,263	475,555	381,315	255,002	64,946						
1973	院	3,494	2,329	1,330	1,217	947	88	129	12.7	9.9	3.2	2.7
	床	707,460	481,142	386,489	253,252	67,719						
1974	院	3,483	2,295	1,309	1,200	974	87	127	12.3	9.5	3.0	2.5
	床	716,530	486,326	387,590	253,949	74,991						
1975	院	3,481	2,260	1,297	1,187	997	84	126	12.0	9.1	3.0	2.4
	床	729,791	489,756	389,429	257,365	82,997						
1976	院	3,436	2,216	1,271	1,159	1,006	85	126	11.7	9.0	2.9	2.4
	床	726,846	489,517	383,674	256,371	36,801						

(資料) ドイツ連邦統計局調べ。

今後みられないと思われる。

なお、1978年1月1日現在の開業医数は56,157人(1976年53,303人)、病院勤務医数は62,726人(1976年59,969人)、行政・研究従事医数は10,263人(1976年9,809人)、歯科医療数は39,986人、薬剤師数は26,220人、看護要員数は223,740人、病院医療従事者総数は702,242人である。

Arbeits-und Sozialstatistik.

Arbeits-und Sozialstatistische Mitteilungen.

Sozialbericht 1978.

Statistisches Jahrbuch 1978.

(石本忠義 健保連)